

# 5月・6月の管理ポイント

平成26年5月7日



株式会社 トモグリーンケミカル

ホームページアドレス  
<http://www.tomo-green.com/>

第135号

マメ知識でも触れたとおり、4月中旬ごろまで全国的に雨の多い天気が続いていましたが、4月下旬は一転して晴れる日が多く、特に27日は真夏日を記録した地域も多かったようです。このような状況ではグリーンの乾燥が一気に進む恐れがありますので、水管理には十分な注意が必要です。



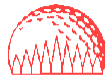
## レボ (REVO)

5月の生育期、6月の排水対策に...

5月は芝生の根をしっかりと伸ばす大切な時期です!!

レボにより表層を乾き気味、土壌中は気相をしっかりと確保した状態にキープし、芝生の発根を促しましょう。土壌中を乾燥気味にして、根に軽いストレスを与えたほうが根が下方まで伸びていきます。散水のポイントとしては、毎日軽く散水を行なう場合よりも(根域にストレスがかからない)、回数を減らして一度に十分な散水を行なった方が(根域に軽いストレスがかかる)、根域が深くなります。6月は、梅雨のため土壌が飽和状態になります。レボ処理で余分な水を排水させましょう。

使用量：レボ 2ml/m<sup>2</sup> 散布水量：200ml~1L/m<sup>2</sup> 散布回数：1ヶ月に1回



## 光合成細菌、サッチ・リムーバー

グリーンの通気性改善に...

梅雨前の更新作業時に**光合成細菌**と**酵素剤サッチ・リムーバー**を組み合わせることによって、サッチを効率よく分解し、通気性の良いグリーンをつくりましょう。

光合成細菌 使用量：1~2cc 1ℓ/m<sup>2</sup>散布 月1~2回

サッチ・リムーバー 使用量：1~2g/m<sup>2</sup> 0.5ℓ/m<sup>2</sup>散布 使用回数：月1~2回



## サッチ・マネージャー

サッチ層の除去には...

本剤は、自然界に存在する微生物の中からサッチ成分に対して優れた分解能力のある有用菌(野生株)を選抜した微生物資材です。16種類の有用菌(乳酸菌11種、枯草菌3種、酵母菌2種)で構成されており、製剤1g当たり約400億個の菌が配合されておりますので、土壌中でも安定した効果が期待できます。殺菌剤を多用するグリーンには**酵素剤サッチ・リムーバー**、ラフ・FWには低価格の**サッチ・マネージャー**の使用がおすすめです。

使用量：ラフ・FW 0.1~0.2g/m<sup>2</sup> グリーン 0.5g/m<sup>2</sup> 散布水量0.2~0.5ℓ/m<sup>2</sup>



## タフスティングァーFL

害虫発生にあわせて...

ゴールデンウィーク以降のグリーンには、タマナヤガ幼虫、シバツトガ幼虫の連続発生が予想されます。また、この時期はコガネムシ幼虫も蛹化前で、活発に動いている時ですから、ネオニコ(イミダクロプリド)+ジアミド(フルベンジアミド)系の新規長期残効型殺虫剤**タフスティングァーフロアブル**を使用しましょう。両成分とも耐雨性に優れ残効性が長いので、安心してご使用いただけます。

使用量：タフスティングァーFL 0.1ml/m<sup>2</sup> 200ml/m<sup>2</sup>散布



## グリーンメカ、マリンパワー

日照不足を補うために、芝生や有用菌のエサとして...

梅雨は日照不足にともない、芝生の光合成が低下していきます(糖類生成量減少)。また過湿土壌からくる酸素不足により、根の活性も落ちてきます。黒糖、各種ミネラルの豊富な**グリーンメカ**で不足しがちな糖類を補ってあげましょう。

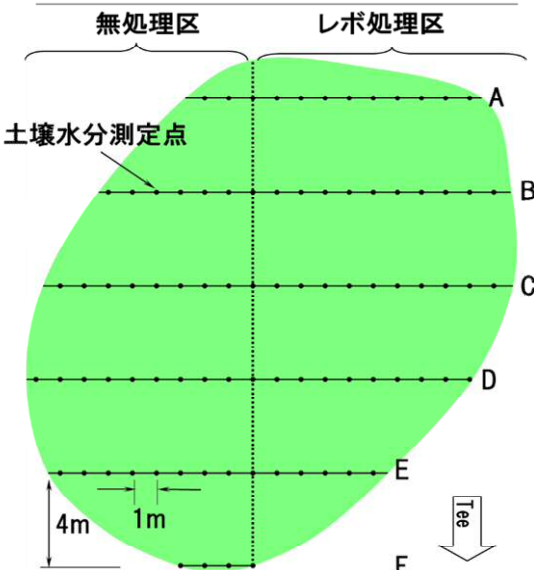
**光合成細菌**と**マリンパワー**を組み合わせることによって、嫌気性の土壌(排水の悪いドブ臭い土壌)を改善し好気性の有用菌を定着させましょう。

使用量：グリーンメカ 5~10ml/m<sup>2</sup> 1ℓ/m<sup>2</sup>以上 マリンパワー 2~4ml/m<sup>2</sup> 1ℓ/m<sup>2</sup>以上

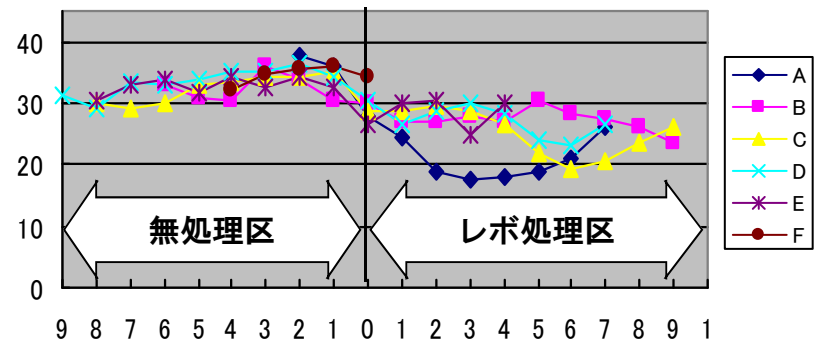
# 過湿グリーンでのレボ、 プライマーセレクトの効果

昨年から今年にかけて、全国的に雨の多い天気が続いたため、ドライスポット改善という点からみた浸透剤の使用場面はかなり少なかったことと思われます。しかし、弊社浸透剤レボ、プライマーセレクトは、過湿状態のグリーンにも様々なメリットをもたらします。今回は、過湿グリーンでのレボ、プライマーセレクト処理試験をご紹介します。

## レボ処理グリーンの土壤水分調査（降雨後）



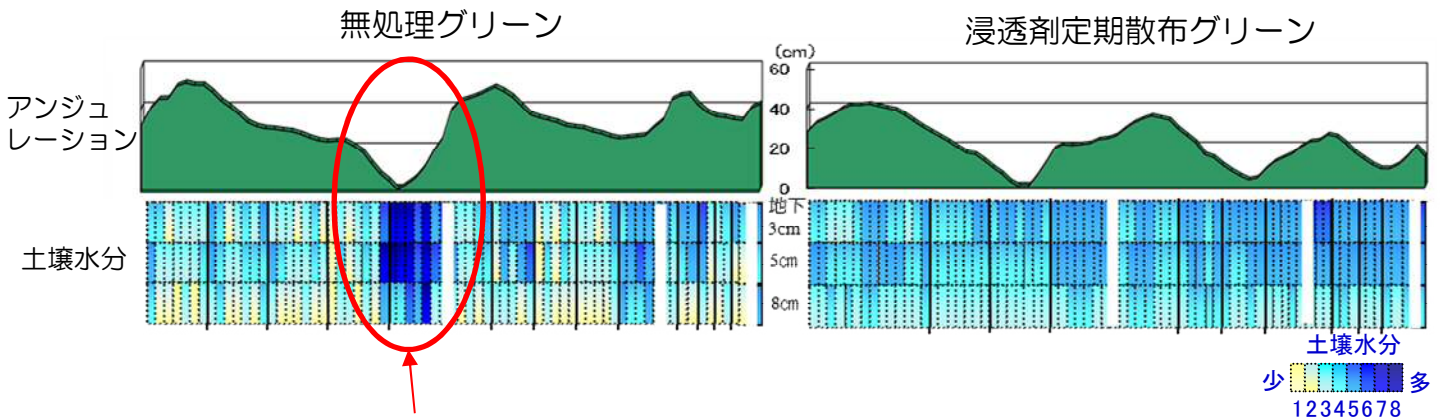
2005年8月27日(台風通過(25日)の30時間後)の水分値



こちらは、半面にレボを処理したグリーンの降雨後（台風通過後）の水分値のデータです。無処理区ではほぼすべての調査ポイントで水分値が30%を超えていますが、レボ処理区ではほとんどの調査ポイントで30%以下でした。

この試験結果からレボは、余分な土壤水分を排水し、過湿状態を改善する効果があると言えます。

## プライマーセレクト処理グリーンのアンジュレーションと土壤水分調査 (グリーンを展開した図)



無処理グリーンでは、低くなっている部分に周囲から水が流れ込み、過湿状態になっているのがわかります。それに対してプライマーセレクト定期散布グリーンでは、グリーンの高低にかかわらず土壤水分が均一になっています。

最近のような雨の多い状況では、土壤中の液相の割合が増加して気相の入る余地がなくなってしまい、根に十分な酸素が供給されなくなる恐れがあります。そのような状況でも、レボでグリーンの水分会を適切な値に保っていれば、土壤中に気相を確保することができます。

また、グリーンの水分会を均一にすれば肥料成分や農薬の効果もムラなく安定して得られます。言い換えると、レボやプライマーセレクトの定期散布はグリーン<sup>の</sup>生育環境の安定化につながるということです。